



入隊予定者らが府中基地を見学



自衛隊東京地方協力本部代々木募集案内所（所長 小田2陸尉）は10月15日、一般普候補生として今年度末の入隊を予定している学生等9名に対し、自衛隊の勤務環境を知ってもらい、入隊へ向けて安心感を付与するため、航空自衛隊府中基地見学を実施した。

当日は、まず航空自衛隊や府中基地の概要説明を受けた後、基地内の各部隊から勤務内容等について説明を受けた。中でも、基地機能の維持に必要な消防業務、随時離発着する航空機の管制業務、刻々と変化する気象情報を整理する気象業務や部隊の活動や隊員の厚生等に係る会計や厚生業務等、それぞれの現場で勤務している隊員の姿を見て、「明るい雰囲気職場で安心した」「一人一人が生きて働きと仕事をしている」等の声のほか、女子学生からは「自分達と同じ年代の女性が多く働いている姿を見て安心した」との感想が聞かれ、参加者の関心の高かった職場見学を通じ、自衛隊での勤務に対し理解を深めている様子だった。

代々木募集案内所は、各種活動の制約を受けるコロナ禍においても創意工夫し、防衛省・自衛隊の活動について理解の深化を図れるよう、所員一丸となって任務に邁進していくとしている。

ヘリにより防災公園の機能を展示



自衛隊東京地方協力本部豊島出張所（所長 星川1陸尉）は11月14日、「としまどりの防災公園（I・K・E・SUNPARK）」のオープニングイベントとして実施された防災機能展示会に参加した。

「としまどりの防災公園」は、豊島区の造幣局東京支局跡地に都会のオアシスとして、また災害発生時の防災拠点として7月11日に誕生した区内最大面積の公園であり、非常時には避難場所や災害用物資の集積場所、ヘリポートとして活用される。今回のオープニングイベントでは、第1師団から第1後方支援連隊衛生隊及び第1飛行隊が参加し、災害発生時における患者後送の一部として、救急車により搬送された重傷患者をヘリコプターで医療機関へ空輸する行動を展示した。本展示を通じて、豊島区の関係者や区民に対し、自衛隊の活動に対する理解の促進を図ることができた。

豊島出張所は、今後も自治体と自衛隊との窓口として地域に密着した活動を実施して「自衛隊いいね!」と思われることを広く拡散できるよう、様々な機会を捉えて活動していくとしている。